

両沼地方稲作情報 第5号

令和7年7月9日

発行：福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所
" 金山普及所

(電話0242-83-2113)
(電話0241-54-2801)

J A会津よつば 各営農経済センター、(有)カネダイ、(有)猪俣徳一商店、(有)山一米穀店、
会津宮川土地改良区、阿賀川土地改良区、会津坂下町只見川土地改良区



QRコード

会津坂下農業普及所のHPでは、これまで発行した稲作情報を掲載しております。
その他、様々な情報を発信しておりますので、お気軽にご覧ください。

“両沼稲作情報”で検索！

幼穂が出来る時期です。中干しから間断灌漑・飽水管理に移行しましょう。

1 気象情報

- ・経過 5～6月の気象は、6月上旬までが低温寡照で降雨が多く、6月中旬以降が高温多照で降雨が少なく経過しています(図1)。
- ・東北地方1か月予報(7/5～8/4)
前半は平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。後半は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。平均気温は高い確率80%、降水量は少ない確率50%、日照時間は多い確率60%です。

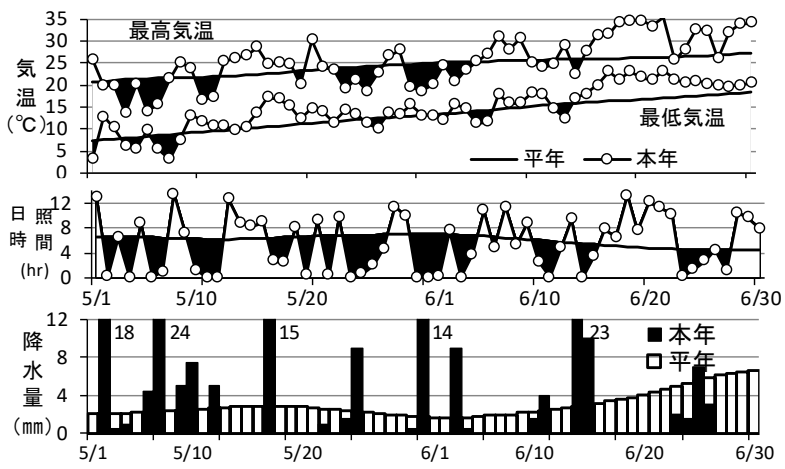


図1 気象の経過(アメダス若松)

2 生育・作業状況

- ・最高分げつ期が過ぎ、草丈や茎数が平年を上回る生育となり(表1、3)、中干しや溝切りが行われています。
- ・一方で、土壌還元や表層剥離・藻類等が影響して、茎数が少ないほ場がみられます。特に低温で出芽が遅れた直播ほ場では、苗立株数が少なく、生育が抑えられたほ場がみられます(表2)。

表1 作柄解析試験の生育(会津地域研究所、7月1日調査)

品種名	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	主稈出葉 (葉)	葉色 (SPAD値)
コシヒカリ	本年	67.4	774	10.5	37.5
	平年	58.7	721	10.3	39.9
	平年差比	115%	107%	0.2	-2.4
ひとめぼれ	本年	62.3	768	10.2	41.2
	平年	55.7	736	10.3	42.5
	平年差比	112%	104%	-0.1	-1.3
天のつぶ	本年	66.1	720	9.9	41.2
	平年	57.4	651	9.8	43.9
	平年差比	115%	111%	0.1	-2.7

注. 5月20日移植、20.8株/㎡(30cm×16cm)植え

3 水管理

(1) 当面の水管理

- ・目標茎数に達した場合
必要茎数(目安(/株) コシヒカリ20本、ひとめぼれ25本、天のつぶ20～22本)を確保したら、直ちに中干ししましょう。
- ・茎数が不足している場合
浅水管理(水深3cm程度)で分げつを促すとともに、土壌還元対策が必要な場合は、一時落水を併用して、茎数の確保を図りましょう。

表2 作柄判定ほの生育(会津美里町内)

年次	苗立数 (本/㎡)	6月20日調査			
		草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	主稈出葉 (葉)	葉色 (SPAD値)
本年	45	34.2	355	7.2	43.9
平年	80	39.0	558	7.7	38.3
平年差比	56%	88%	64%	-0.5	+5.6

注. コシヒカリ、点播、4月29日播種

表3 作柄解析試験の生育ステージ

品種名	最高 分げつ期	幼穂形 成始期	出穂期
コシヒカリ	7月2日	7月14日	8月4日
ひとめぼれ	7月2日	7月8日	7月30日
天のつぶ	7月3日	7月10日	8月1日

注. 会津地域研究所(5月20日移植、平年値)

7月は高温が続く予報です。高温による品質低下を防ぎましょう

- ◆ **水管理** 間断かんがい、飽水管理（ひたひた水、足跡や溝切跡に水が溜まっている状態）で管理して、根の活力維持と地温上昇を防ぎましょう。
- ◆ **穂 肥** 生育に応じた穂肥を行い、葉色の低下による栄養凋落を防止しましょう。
また、ケイ酸カリ等の資材施用により丈夫な稲体を確保しましょう（ケイ酸資材は、水稻の蒸散を促して葉の温度を下げる効果があります）。
- ◆ **カメムシ 防 除** 畦畔雑草や水田内雑草の除草の徹底と、適期の薬剤防除を組み合わせることで斑点米カメムシ被害を防止しましょう。

（2）中干し後の水管理

- 中干し後は、間断かんがい、飽水管理（ひたひた水状態）で管理しましょう（図2）。土壌に酸素が供給され根の活力維持とともに、地温上昇が抑えられます。高温下で長期間の湛水は、根腐れの原因になるため注意が必要です。
- 幼穂形成期から出穂後30日までは、イネが水を必要とする時期です（表3、幼穂形成期の目安日）。特に登熟期前半（出穂後20日間程度）に高温が続く場合は、白未熟粒による品質低下に繋がりますので水を切らさない（土壌を乾かさな）ようにしましょう。
- なお、中干しが行えなかったり、十分にできなかった場合は、時々、走水させながら、7月末（出穂時期前）までに徐々に土壌を乾かすようにしましょう。

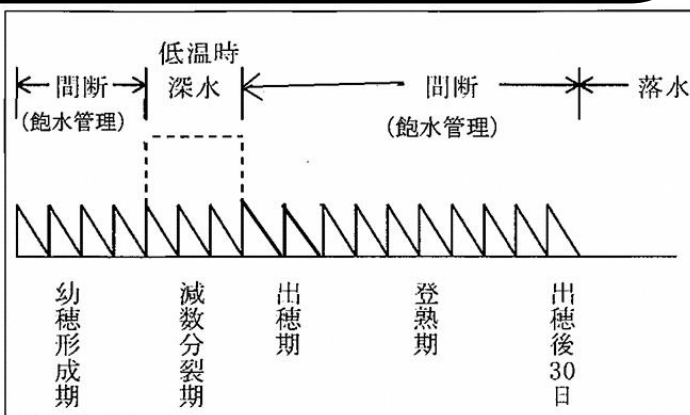


図2 中干し後～出穂後30日までの水管理

4 穂肥

- 出穂25日前の生育を確認して、草丈が長く葉色が濃い場合は、穂肥の量を減らすか、施肥時期を少し遅らせましょう（表3、4に出穂期、穂肥の目安）。
- 基肥一発肥料を使用している場合、極端に葉色が低下している場合を除き、穂肥は必要ありません。

表4 主な品種の穂肥目安

品種名	時期	窒素成分量
ひとめぼれ 天のつぶ	出穂前25日前	2kg/10a
コシヒカリ	出穂前15日前	1.5～2kg/10a

5 病虫害対策

高温により県内全域で斑点米カメムシの発生量がやや多くなっています（図3）。一方で、いもち病の常発地では葉いもちの発生がみられ、注意が必要です。

斑点米カメムシ対策

- 出穂間際の畦畔草刈りはカメムシをほ場へ追い込むため、出穂10日前までには草刈りを終えましょう。
- 散布剤による防除は、乳熟期（出穂7～10日後）の散布を基本とし、その後発生が予想される場合は7日おきに追加散布しましょう。
- 粒剤（水面施用剤）による防除は、穂揃期～乳熟期を目安に散布して、7日間、止水期間します。
- 出穂の早いほ場に加害が集中しやすいため、早生品種や移植時期の早いほ場では注意が必要です。
- 「天のつぶ」や「里山のつぶ」等、割れ粳の発生しやすい品種は加害されやすいため注意が必要です。



図3 会津地域の主な斑点米カメムシ



QRコード

水稻病虫害防除対策の情報

（福島県病虫害防除所ホームページ

をご覧ください）

- 無人ヘリコプター等での農薬散布には実施計画書等の提出が必要です。（詳しくは普及所まで）
- こまめな休息と水分補給を行い、熱中症を防ぎましょう。
- 適切な水管理で節水に努め、用水の有効利用にご協力をお願いします。